

羽村市史編さんだより

令和2年4月

第21号

伸びゆくはむら

特集

空から見た遺跡—空撮—

3

1 News

2 資料紹介

4 部会の手帖

5 市史編さんの足あと

5 コラム「ちっとんべえ」



『羽村市史 資料編 近現代（仮）』の刊行について

昨年度中の刊行を予定していた『羽村市史 資料編 近現代（仮）』については、刊行を1年延期することとしました。

より充実した内容となるよう、取り組んでいきます。

令和2年度の事業計画をお知らせします

『羽村市史 資料編』の頒布

これまでに刊行した『羽村市史 資料編』「中世」「近世」「近現代図録」「自然」を頒布しています。

◆頒布価格 各2,000円

◆頒布場所 羽村市役所1階総合案内・羽村市郷土博物館

『羽村市史 資料編』の刊行

今年度に刊行を予定している資料編は次のとおりです。

◆『羽村市史 資料編 近現代（仮）』

明治から現在に至る西多摩村・羽村町・羽村市の歩みについて、市内外に残された文字史料を取りまとめていきます。

◆『羽村市史 資料編 社寺・文化財・人物（仮）』

市内の社寺や文化財、羽村の歩みに大きな影響を及ぼした人物について、関連する歴史資料などを基に解説します。

羽村市史関連講座の開催

第6回羽村市史関連講座を12月に開催する予定です。これまでの市史編さん事業の成果を皆さんにお伝えすることができるよう、今年度のテーマについての検討を進めています。

羽村市史関連講座の詳細情報については、今後の本誌「伸びゆくはむら」や「広報はむら」、羽村市公式サイトなどでお伝えします。

『羽村市史』頒布実績（平成30年度～令和元年度）

これまでに刊行された『羽村市史』の頒布数について、令和元年3月末時点のデータは次のとおりです。

『羽村市史 資料編 中世』	・・・	124冊（平成30年度～）
『羽村市史 資料編 近世』	・・・	51冊（令和元年度～）
『羽村市史 資料編 近現代図録』	160冊（平成30年度～）	
『羽村市史 資料編 自然』	・・・	96冊（令和元年度～）



表紙の写真

アドバルーンを使用した遺跡の記録写真撮影

市内にある羽ヶ田上遺跡発掘調査のひとつです。発掘調査区域を上空から撮影するため、赤いアドバルーンにカメラを取り付けて空中に浮かべています。撮影位置の微調整は、アドバルーンからのびる2本のロープを操作して行いましたが、風の影響に注意しながらの作業でした。

資料紹介

今回は、『羽村市史 資料編 民俗』編さんの過程で調査した資料を紹介します。

「羽村のお産婆さん」



▲写真1 お産婆さんのカバンと道具

写真1に写っている、黒革のがっしりとした、それでいて丸みのあるフォルムのカバン。これは、羽村市域でお産婆さんをしていた方のカバンです。このカバンに道具や薬品を入れ、妊産婦宅へ自転車で駆けつけたそうです。

カバンの向かって右側にあるのはトラウベ（トラウベ棒状聴診器）。下側の広い面を耳に、上側の面を妊婦の腹にあて、胎児の心音をききます。

向かって右下は骨盤計。簡易的に骨盤の大きさを計る道具で、自然分娩による出産が可能かを調べます。

骨盤計の向かって左側にある小瓶には「オリーブ」とかかれています。おそらくオリーブ油のことで、銀色の蓋付きバット（写真右上の箱）に入っていました。初乳の出をよくするため、乳腺炎を治すため、乳房マッサージをするときなどに使ったのでしょう。

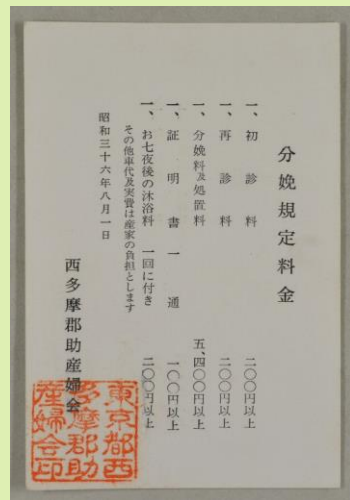
他にも、白いエプロン、内診時に使う器具、消毒薬を入れた小瓶、脱脂綿やガーゼ、器具を煮沸するための容器、分娩時に使う水差し、臍の緒や産毛を入れる桐箱、粉ミルクを軽量するときの「すり切りナイフ」など、さまざまな道具があります。その時々で必要な道具をカバンにいれ、妊産婦宅へ駆けつけました。

「産婆」という呼び名は、昭和23年（1948）には「助産婦」に、平成14年（2002）には「助産師」に改められましたが、今でも市域で昔の話を聞くと「〇〇産婆さん」という呼び名を耳

にします。昭和20年代前半の第一次ベビーブームの頃は1日に何回も出産に立ち会うことがあったそうです。

そんなお産婆さん自身も我が子を持つ母親。出産、育児をしながらの仕事でした。あるお産婆さんは自身が出産した後2～3日しか休みをとらず、すぐに仕事へ復帰。自分の子どもを背負って出産に立ち合い、その合間に授乳したこともあったそうです。

昭和30年代後半から40年代にかけて、自宅出産から、助産院や病院での出産が多くなります。写真2の「分娩規定料金」（西多摩郡助産婦会）は、羽村市域において病院出産が増えはじめる、昭和36年のものです。「初診料」「再診料」「分娩料及処置料」と並び、「お七夜の沐浴料」とあります。出産翌日から7日間、お七夜までは毎日産婦宅へ通い、風呂や食事の指導をしました。お七夜の祝いの席に招かれるこ



▲写真2 「分娩規定料金」

ともあり、赤飯などのご馳走がふるまわれたそうです。お七夜の後もしばらくは産婦の家を訪ね、新生児や産婦の介助をしました。

家によってちがいますが、男の子は生後31日目、女の子は生後33日目に、氏神に参拝します。この初宮参りのときに、お産婆さんのところへ赤飯やスルメ、昆布などを持ってくる人もいたそうです。

市史編さん調査で話をうかがえたお産婆さんは、いずれも明治期生まれの方々でした。

何がおこるかかわからない出産において、経験豊かで、地域に密着したお産婆さんは、とても心強い存在であり、今でも「〇〇産婆さん」として名前がでてくるほど人々の生活に身近な存在であったようです。

『羽村市史 資料編 考古』を作成するにあたり、市域遺跡の発掘当時の記録写真を確認しました。改めて写真を見ると、発掘当時の風景はもちろん、遺跡の示す遙か昔の風景を想像することができます。

◆記録としての写真

遺跡の発掘現場では、掘り進める作業と同時に、遺構の測量や図面作成、写真撮影が行われます。遺跡は掘ってしまったら、二度と元の形には戻りません。土器などの出土した遺物と違い、建物跡などの遺構は動かすことができないため、限られた調査期間の中での記録が必要です。

遺跡から得られる情報を漏れなく記録するために、写真撮影は欠かせません。フィルム、デジタルとカメラの種類を変えて撮影したり、同じ遺構でもアングルを変えた写真を複数枚撮影したりします。視点を変えてみることで、新たな発見もあります。

◆羽村市域の調査写真から



▲写真1: 飛行機から撮影した写真

写真1は遺跡の上空に飛行機を飛ばし、そこから発掘調査現場を撮影した航空写真です。航空写真は、遺跡がどのような立地にあるのか、調査時の周辺の様子もあわせて確認することができます。

写真2の調査風景写真には、やぐらに登って撮影する様子が残されています。地上より少し高いアングルから撮影する際の撮影方法のひとつで、安全対策にも充分配慮しての撮影でした。このようにして、遺構を掘り進めて撮る、さらに掘り進めて撮る、と繰り返し記録されました。

遺跡の調査面積によって撮影方法は変わりますが、発掘現場全体を一目で見ることのできる全景写真や、個々の遺構の全容を記録する写真を撮る必要があります。

地上で発掘作業をしている時にはわからなかった穴も、上からみると規則的に並んでいる様子が気づくことができ、建物の柱穴ではないかとわかることもあります。このように、遺跡を空から見下ろすと、遺構を詳しく知ることができ、立地や周辺遺跡との関係性などもわかります。



▲写真2: やぐらからの撮影

◆最近の空撮

平成30年度、市域の羽ヶ田上遺跡第8次調査で空からの撮影に使用されたのは、写真3の無人航空機（ドローン）です。飛行機を使っでの空撮は、天候の影響を受けやすく、費用的に何度も飛ばすことは難しいですが、ドローンによる撮影が可能になったことで、より正確に撮影者の考える撮影ポイントへとカメラを動かすことが可能となり、また撮影回数を増やすこともでき、測量への応用も進んできています。



▲写真3: ドローンを使用した撮影

空から遺跡を見るように、視点を変えてみることは、遺跡の姿を考えていく上で、大事な作業です。資料編には多数の調査風景写真のほか、写真から得た新しい考察も掲載されます。

部会の手帖



各部会の活動の様子を紹介します。

※1～3月の活動をお知らせします。

第1部会

～原始・古代・中世～

入稿した資料編の原稿をもとに、印刷業者が試し刷りを作成し、そこへ校正を加える作業を行いました。

各遺跡内容の整合性や、資料編全体を通して文章表現の統一がされているかを確認し、より読みやすいものとなるように整えていきました。

第2部会 ～近世～

本編執筆へ向け、羽村市内外に関わらず、羽村市域に関連する参考文献の収集と検討を継続しています。

本編の内容について、読者の理解がより深まるように、図版の作成もあわせて行っています。

第3部会 ～近代・現代～

羽村市の行政文書の筆耕・翻刻作業を継続しています。

マイクロフィルムに撮影された数万件の文書の写真から、市史編さんに活用できるものを約1,500件選定し、データ化をすることで、資料編に活用できるようにしています。

第4部会 ～自然～

昨年10月の台風通過による宮の下運動公園の土砂の堆積を調査しています。

観察していくと、阿蘇神社側からの浮遊砂の流入、河原側からの礫の流入、洗堀により地下から掘り出された砂礫の移動というように3タイプに大別できる堆積がみられました。また、過去の大型台風接近時の様子についても聞き取り調査を行いました。

第5部会 ～民俗～

より読みやすい資料編となるよう、文章内容の検討を重ねました。

また、関係者の方々のご理解、ご協力をいただきながら、本文に即した写真選びやレイアウトを検討し、刊行にむけた作業を行いました。

用語の解説

せんくつ

* 洗堀… 流水や波による、河岸、海岸または河床や海底の土砂が洗い流されること。

市史編さんの足あと



※①～⑤は部会の数字です。（例）① ⇒ 第1部会

月	日	できごと
1月	15日（水）	羽村市史編さんだより第20号発行
	17日（金）	④市内調査（宮ノ下運動公園他）
	22日（水）	⑤資料編原稿入稿
	28日（火）	⑤資料作図作業（市史編さん室）
	29日（水）	⑤資料作図作業（市史編さん室）
	31日（金）	④市外資料調査（東京都水道歴史館） ⑤資料作図作業（市史編さん室）

月	日	できごと
2月	5日（水）	④市内調査（宮ノ下運動公園他）
	17日（月）	④市内調査（宮ノ下運動公園）
	21日（金）	④市内調査（宮ノ下運動公園他） ⑤市内聞き取り調査（個人宅）
3月	6日（金）	⑤市内資料調査（郷土博物館）
	11日（水）	⑤市内資料調査（郷土博物館）
	12日（木）	⑤資料作図作業（市史編さん室）



「伸びゆくはむら」バックナンバーについて

以下の場所でご覧いただけます。

- 市史編さん室（市役所西庁舎3階）
- 羽村市図書館（3階地域資料コーナー）

▼コチラから

このほか、羽村市公式サイトでもご覧いただけます。



コラム

ちっとなべえ

第21回 「市史編さん室の模様替え」

今年の4月1日で市史編さん室が発足してから、6年をむかえました。この6年の間に、市民の皆さんから資料を長期間借用させていただいたり、調査のために集めた資料や調査記録を保管したりと、多くの成果物が編さん室に蓄積されてきました。

たくさんの資料を眺めると、市史編さんが着実に進んでいることを改めて実感しますが、その一方で作業スペースが少なくなってきました。

そこで、昨年末に室内の模様替えを決行しました。机やプリンターの配置を変えて作業スペースを確保しつつ、通路幅を広めにとって、資料を運びながらも通りやすいようにしました。模様替えを終えた室内は、ちょっと新鮮に感じました。来室した方には「あれ、前来た時と違ってる!？」なんて驚かれることも…

模様替えで気持ちも新たに、これからの市史編さん事業に取り組んでいきます。（T.E記）



▲市史編さん室の様子（令和2年）

※「ちっとなべえ」とは、羽村の昔ことばで「ちょっと、少しばかり」という意味です。